わだち 轍

轍【わだち】

車が通ったあとに残る輪の跡という意味から、「先人たちが築いてきたものを大切にしながら、未来へとつないでいく」という思いを込めてつけました。

カテゴリーの見方

- Topics／最新の出来事
- People／障害者の暮らしぶりを紹介
- Work／福祉で頑張る人たち
- Art／障害者の光る感性
- Message／支援者からのメッセージ
- Report／取り組み報告

発　行：総合支援センターかがみの　社会福祉法人 高知県知的障害者育成会　〒780-0028 高知県南国市陣山531-1　TEL088-855-3717　FAX088-855-6181
発行責任者：福永康夫（社会福祉法人 高知県知的障害者育成会）　編集責任者：下元義孝（社会福祉法人 高知県知的障害者育成会）　印　刷：社会福祉法人 すずめ共同作業所

Message

はちきん母さんから学ぶ

社会福祉法人 高知県知的障害者育成会
専務理事
藤澤　功賀

私にとって忘れることのできない人がいます。その人は明治44（1911）年に土佐郡大川村で呉服・雑貨商の六女として生まれた岩崎令子さんです。

彼女は昭和９（1934）年に海軍軍人であった岩崎信道氏と結婚、翌年に長男が誕生。彼は３歳の時、脳性まひにかかり医者から知恵遅れになると診断されます。保育園には受け入れを拒否され、学校でも厄介者扱い、次第に学校にも行かなくなります。

そんな折、昭和19（1944）年に夫の戦死、次男の病死と大切な人を相次いで亡くします。しかし彼女はそんな苦悩を乗り越え、持ち前の明るさとバイタリティーで、障害のある息子に何とか専門的な教育を受けさせたいと、昭和23（1948）年高知市に移り住みますが、当時の高知市には療育を受ける場はありませんでした。

彼女の願いがかなったのは、息子が14歳の時で、受け入れてくれたのは、滋賀県の近江学園でした。後日この時のことを「この子のためにと、歯を食いしばり生きてきたが、県外に出す寂しさはとても悲しいものでした。しかし、この子が幼い時より願っていた、この子にあった教育をやっと受けることができると思ううれしさが、はるかに勝っていました」と、話されていました。

この幸せを他の親にも分かち合いたいと、彼女は障害児のいる家に足繁く通いますが、「家にはそんな子どもはいない」と門前払いが続いたと言います。しかし諦めずに活動を続け一人また一人と理解者を増やし、「高知県手をつなぐ親の会」（現「高知県知的障害者育成会」）を結成することになります。

さらにこの子らに高知で専門教育を受けさせることのできる場をつくりたいと、街角に立っての募金をはじめさまざまな活動を行い、多くの賛同者を得て、昭和37（1962）年「かがみの学園」（児童）、かがみの育成園」（成人）が土佐山田町に開設されました。さらに、まだまだ多くの困っている知的障害者のために、新たな施設づくりをはじめ育成会活動にも深くかかわり、全生涯をかけて尽力されました。

私は、この「かがみの育成園」に昭和46（1971）年より勤務させていただくことになりましたが、彼女に出会った中で、多くのことを学ぶ機会を得ました。いろいろとお話を聞かせていただき、知的障害について、親の思いについて深く学ぶ中で、私自身育てていただいたと感謝しております。

その中でも最も心に残っていることは、障害のある人たちが「人として大切にされ普通に暮らせる社会」の実現を、彼女が強く願っていたことです。私たちは、彼女の遺志を心に刻み、少しずつではありますが施設での生活の質の向上に努め、障害のある人たちも可能な限り地域で生活できるようにと取り組んでいます。

遅々とした私どもの歩みの上にも、沢山の月日が流れています。先日、私の入職と同時期に入園されたSさんが介護や医療が必要となり、40年近く過ごした「かがみの育成園」から療護施設に転出する日の朝礼で、両手を合わせ「皆さん、長い間お世話になりました」と挨拶されました…。両手を合わせた彼女の一言に私は「また、遊びにおいでください」と答えるのが精いっぱいでした。

この短い会話の中で、彼女が入所し、ともに過ごした日々が走馬灯のように過ぎ去り、「この人の人生はどうであったか？夢や希望を持ち、充実した人生を過ごせたのか？私は、この人にとってどのような存在であっただろうか？」と。やり残したことがたくさんあったような、申し訳なさや、後悔に似た思いでいっぱいでした。障害があろうとなかろうと、それぞれに大切な人生があり、その人生が一人一人にとって輝いたものでなくてはならないと、あらためて痛感させられました。

最後に、思い出をもう一つお話ししたいと思います。岩崎さんは、入職したての二十歳そこそこの私にも、しっかり向かい合って話してくださいました。そして、常に相手の思いになって言動されるお姿が、瞼に焼き付いています。

こんにち、人間関係が希薄になっているとか、格差社会のひずみとか問題視されますが、彼女から学んだ「相手を思う気持ち」こそが「人がつながり」「人が大切にされる」「人権が大切に守られる」源だと確信します。

かがみの育成園誕生後、彼女が切望されていた施設が多くでき、そして平成３（1991）年５月９日、くしくも、その施設が集まっての体育交流会の日に訃報を聞くことになりました。

岩崎令子さんは、知的障害者の母であるばかりでなく、私たち福祉に携わる後輩たちを、今も静かに導き続けてくれる偉大な母でもあります。

岩崎令子さん（1911～1991）
高知県遺族会会長・高知県精神薄弱者育成会理事長として、社会福祉の増進に貢献する。高知グランドホテル鈴の創業者でもある。藍綬褒章・勲五等瑞宝章受章

Topics

パワーズ山田 避難スペース 落成

平成25年度の避難スペース整備事業により、生活介護事業所パワーズ山田に鉄骨造平屋建て（延面積208.8㎡）を建築いたしました。

災害時、通常の避難所に避難できない障害者やその家族が、避難スペースを利用することを想定し、概ね40名が利用できるようにしています。

発災時には、かがみの育成園、ウィッュかがみのの「香美市香南市南国市広域避難所」と併用して、利用できるように整備を進めています。

Work

ゆめに近づけるように

「ゆめに近づけるようにがんばらなあいかん」と力強い言葉を発してくれたのはライフサポート「中村」中村第６―２ホームの畑山京子さん（35歳）です。彼女は平成24年12月から中村病院で入浴介助員として働いています。今回のWorkのコーナーでは畑山さんが語った「ゆめ」を紹介したいと思います。

〇〇さん熱くないかえ！〇〇さん気持ちえいかえ！と患者さんへの声掛けが自然に出ています。脱衣、洗体・拭き、着衣と主任さんとのペアも板についています。患者さんの「気持ちがええネ」という声が聞こえてくるようです。

過日、取材のため職場を訪問させていただくとそこには快活な笑顔の畑山さんの姿がありました。主任さんからは患者さんとのコミュニケーションもとれているし、スタッフとの信頼関係もできていると業務に対して太鼓判を押されています。また同僚からも頼りにされる存在になっている畑山さんですが、ここに至るまでには長い道のりがありました。

幼いころ家庭の事情により家族と離れ施設で暮らすことになりました。その後、中村養護学校（現在の中村特別支援学校）を卒業し四万十市内で就職、その頃は仕事もホームでの生活も順風満帆な時を送っていました。その彼女の生活に、突然嵐が吹き荒れ出したのです。長く勤務した事業所が、経営規模の縮小をはかりリストラとなってしまったのです。その後、黒潮町の歯科医院へも就職しましたが、同じような結果となってしまいました。

めぐり合わせなのか母親との永遠の別れ、失恋、仲の良い友人の大病などが重なり、何ごとにもやる気を無くしてしまいました。

この頃の畑山さんには仕事に前向きに取り組む姿勢が少し足りなくなっていたようにも思います。就職難も重なりしばらく多機能事業所「アオ」を利用することになりました。「アオ」では清掃やリサイクルの作業に取り組みました。

「アオ」での作業は楽しかったものの就労移行支援事業を通じ、周りの仲間が一人ひとりと就職していく姿を見てすこしさびしい気持ちになっていました。「やっぱり自分は一般就労がしたい」「今のままじゃ満足できない」という気持ちがふつふつと湧いてきたようでした。

そんな畑山さんに転機が訪れたのは平成24年度に始まった高知県主催の障害者ヘルパー２級養成講習です。彼女は２つ返事でこの講習を受けると言いました。講習を通じ高齢者の皆様のお世話をしてみたいと思ったそうです。

思い起こせば一般就労から離れ自分を見つめなおすことのできた「アオ」での充電期間が、このあとの畑山さんをつくったと言っても過言ではありません。ヘルパー２級取得後、中村病院で求人があるとの情報が入りました。連絡すると事業所からの要望として、清掃や給食に関しては業務委託しているからあくまで「入浴介助」をお願いしたいという事でした。畑山さんから「ぜひやってみたい」という声がありましたが、私たち支援者はその「入浴介助」業務の難易度の高さに、やや躊躇したことを今でも覚えています。その後、各関係機関を含めケース会を重ね、平成24年12月からトライアル雇用３ヶ月、ジョブコーチ支援事業等を利用し中村病院で勤務することになりました。特にジョブコーチ支援については病院側も初めての障害者雇用でもあり彼女の大きな助けになる事となりました。

就職後業務内容にも慣れてきた畑山さんですが、途中人間関係で悩んだ事もありました。

その時は事務長さんはじめスタッフの皆様の協力により早めの対応ができ乗り切ることができました。

心配されていた「入浴介助」については、技術的に意外とすんなり携わることができました。障害者職業センターによると、全国的にも少ないケースであるから成功事例として紹介していきたいと言われる程でした。仕事に対しての自信はすごくついてきているようで、今後は本人大会等で仕事について発表してみたいと強く希望しています。

仕事も充実、ホームの生活にも十分に満足しているようですが、決して現状に留まるつもりはないとのことです。

冒頭の彼女の「ゆめ」とはなんでしょうか。

インタビューより

Q：今の仕事はどうですか？

A：すごくやりがいがある。自分のためになるけん。この仕事をずっと続けて行きたいがよ。自分が年がいった時やってもらえるけん恩返しと思いよう。

Q：将来の生活はどうしたいですか？

A：「今のグループホーム（２人住居）の生活はまあまあやけんど将来はひとり暮らしがしたいがよ」

Q：一人暮らしがしたいが？

A：「ひとりぐらしもええけんど、結婚もしたいと思いよう。相手もおるしね。」

Q：結婚したいが？

A：「できたら、ひとりじゃなくて家族をつくりたいがよ！家族を作ってくらしたいがよ」

「記事にしてかまんかえ？」と尋ねたらすてきな笑顔が返ってきました。

「家族をつくりたい」幼い時からの彼女の「ゆめ」は当たり前と思われることでした。しかし、彼女の過去の人生の中には当たり前のことが当たり前で無い事が多すぎたかもしれません。頑張り屋の畑山さんはこれからも自分の素敵な「ゆめ」に向かってチャレンジする事と思います。そんなあなたをわたしたちみんなで応援しています。

障害者就業・生活支援センター
「ラポール」
上岡　敬

People

ファッションショーの実現

障害のある人がもっとファッションに興味を持ってもらいたいとの思いから、平成26年２月ファッションショーを開催しました。

今回のショーの企画運営されたライフサポート「大津」 サービス管理責任者　葛目博子さんにお話を聞きました。

Q：いつごろからファッションショーをしようと思っていたのですか？

A：２年程前に、障害のある方たちのファッションショーの写真集を作ったというカメラマンの方と知り合い、その写真集を頂いたのがきっかけでした。そして、職員に提案し、話を進めていきました。

Q：まず、どういったところから取り組みましたか？

A：はたして、モデルをしたい方がいるのか？

観てくれる方がいるのか？

手伝ってくれる美容関係の方がいるのか？

会場の準備ができるのか？

色んな不安がありました。

まずは、モデルさんの募集をしたところ10名ほどの方が手をあげてくれたので、不安はありましたが動き始めました。

Q：美容関係の方などどういうふうにプランしていきましたか？

A：ヘアメイク関係の専門学校２校にボランティアを依頼しましたが、学生では難しいと断られました。知り合いの美容師に誰かいないか相談したところ、その方が引き受けてくれることになり、美容師さん２名の確保ができました。

ショーを終えてみて、ヘアメイクは事前にモデルの写真や希望を聞き、イメージを描いていただき、当日は短時間に11名ものヘアメイクを仕上げてくれました。これはプロの美容師さんでないとできなかったと感じました。

Q：モデルさんの服は、どのようにしてコーディネートしていきましたか？

A：自分で考えた方や職員と一緒に考えた方など様々です。一緒にお店に購入しに行った方もいましたし、職員が持ち寄った服や小物を選ぶ方もいました。

何着も着替えての服選びは、とても楽しいものでもありましたし、時間がかかるのでモデルさんの体力勝負といったところもありました。（笑）

Q：ショーの間、舞台裏も含めてどんな様子でしたか？

A：緊張しながらも自信に満ちたモデルさんの姿が印象的でした。会場では、歓声が上がるなど観客の皆様に大いに盛り上げて頂きました。出演している人も観る人もみんなに楽しんで頂けたのではないかと思っています。楽屋では、衣装チェンジでごった返し、さながらパリコレの楽屋の様子でした。パリコレは想像ですが…ね。

Q：観客は、どのくらい来ていましたか？

A：このことは、当日にならないとわからなかったので一番不安でした。

いざ、始まってみると障害者

Report あの人は今～退園された人たちのその後～

現在障害者支援施設かがみの育成園では65歳を超えた方が81名中12名ご利用されています。また、50歳を超えた方となると実に35名を数えます。この数字のように利用者の高齢化が徐々に進んでおり、老年期をどう捉えどう支援していくか、これから私達の取り組むべき課題のひとつでもあると考えています。今回はそんな中、本園を退所され介護保険施設に移行されたお二人の退所に至る経緯と現在の暮らしぶりについて報告させていただきたいと思います。

井上昌秀さんは昭和49年にかがみの育成園に入所され、本園での39年間の生活を経て昨年８月に特別養護老人ホーム葉山荘に移行されました。ここ数年加齢とともに股関節の軟骨がすり減り痛みをともない、歩行が困難となっていました。また平成４年より緑内障を発症し視野狭窄が次第に進み、歩くと壁に真正面からぶつかったり、食事の際目の前のお茶碗に気がつかないような状態となり視力の衰えが目立ちはじめました。本人も歩いたら転倒してしまうのではないかという恐怖感からか気力も減退し、居室から移動することを拒否することが多くなっていきました。好きだった入浴や食事までも嫌がるようになり、本人にとって日々の生活が満足を得るものではなくなっていきました。スタッフ間でも何度も話し合いを重ね、やはりここでの生活は限界が近づいているのではないかと判断、移行先を模索することとなりました。できるだけ自宅から近い場所を候補に探しましたが、なかなか入所の順番はきませんでした。じっとしていてもご本人の生活は改善されないと、葉山荘様や他施設に出向き、本人の現状を伝えて回りました。熱意が伝わったのか葉山荘様より入所をお受け下さるとのご返事をいただき、移行の運びとなりました。

移行からしばらくして井上さんを訪問させていただきました。寝起きのせいもあってかほとんど口を開いてくれませんでしたが、大好物のコーラを手渡し「飲む？」と訊くと「飲む！」と答えてくれ、二人でコーラを楽しみました。また、つい先日女性スタッフ３人で井上さんを訪ねた際にはだんだんと思い出してくれたのか話がはずんだようです。歩行器を使って施設内を歩くことが日課となっており、運動も確保され以前よりも肌艶も良いような印象を受けたとのことでした。

井上さんは移行後しばらくの間「育成園に帰りたい」と泣き続ける日々を送ったそうですが、現在は環境にも慣れ、毎日穏やかに過ごされているとのことでした。部屋やレイアウトを変更するなど工夫しながら、スタッフの方々も試行錯誤され、現在の安心につなげて下さったのではないかと感じました。

山田晴雄さん（67歳）はかがみの育成園に昭和42年に入所、46年間本園で過ごし、この４月に特別養護老人ホーム韮生郷へ移行されました。２年前外出中、道でうずくまり歩けない状態となりました。次第に歩幅が極端に狭くなり、歩行がおぼつかなくなりました。そして急激に歩行が困難となり、その年の秋には車椅子での生活になりました。医師からパーキンソン症候群と診断を受けました。移行先を模索し香美市役所に出向いたところ、同市物部町にある特別養護老人ホーム韮生郷を紹介されました。平成24年暮れに開設された新しい施設で空気のきれいな自然の中にあり、環境としては抜群、私も山田さんはここへ移れたなら安心して生活できるのではないかと確信しました。ご本人にも見学してもらったところすぐに気に入った様子で、園に戻ってからも「いつから行ける？」と気持ちは既に新しい生活へと動いたようでした。その後、韮生郷様よりお返事があり、入所に至りました。

そして移行から１ヶ月程過ぎた頃、山田さんにお会いしました。ちょうど入浴後のおやつの時間帯で、ゆったりテレビを観て過ごされていました。かがみの育成園と今の生活とではどちらが気に入っているかとの質問には「こっち（韮生郷）」と即答。移行に関わった人間としてほっとした瞬間でした。入浴の場面では最初の２週間程は嫌がることもあったようですが、現在は気持ちよく入浴されているようでした。また、ジャンパーが好きということから男性スタッフさんから白い爽やかなウインドブレーカーをちゃっかりいただいたりして、新しい環境に少しずつ馴染むことができているなと実感して帰路につきました。

私自身、老年期の方の支援を考える際、「住み慣れた場所でできるだけ長く」という思いと「新しい環境に順応できるうちに移行を」との思いが交錯し判断に迷います。

「本人が安心して暮らせるには」を念頭に置きながら、障害者施設の役割を考えるならば、少しでも本人が機能を維持しているうちに、本人の状態に応じた環境への移行が望ましいのではないかと考えるようになってきました。もちろんご本人、ご家族のご意向もいただきながらどういった支援がベストであるのか共に考えていきます。井上さんのお母様は長年生活したかがみの育成園に愛着を持って下さり、離れることに大変苦悩されました。そういったご家族の思いも心に刻みながら今後の高齢者への支援のあり方を模索していきたいと思います。

最後に葉山荘様、韮生郷様には、当園を退所された後、両高齢者施設で手厚く介護して下さっている様子を見て、井上さん、山田さんを大切にしてくださっているのを感じ、感謝の気持ちで一杯です。厚く御礼申し上げます。私もお二人の今後をできる限り追いかけていきたいと思います。

障害者支援施設かがみの育成園
和田　敦史

就業・生活支援センター「ゆうあい」の登録者、家族の方、関係機関の方、法人の職員など34名の方が観に来てくださいました。事前の宣伝（職員研修会、手をつなぐ高知県大会にて）効果もあったのかなと思っています。モデルさんも宣伝していたようで、高知県障害者職業センターの方が観に来て下さり非常にうれしかったです。また、モデルが花束を頂くというサプライズもありました。

Q：ショーの後、どこかに行かれたそうですが・・？
A：当日までにモデルさんたちが衣服のコーディネートを楽しそうにしている姿を見て、そのままの格好で出掛けたいよね！と思いました。当日ショーの後、モデルさん全員がこじゃれた（おしゃれな）レストランでランチを取り、会話も弾んで楽しいひとときを過ごしました。

Q：葛目さん、一言で感想を？
A：少ない予算で華やかな催しをしようという無茶な企画は、苦労も多かったです。しかし充実した表情をしているモデルさんの姿を見ると、日々の暮らしの中でなかなかできない体験をして頂くこともできて大成功、裏方として大満足のファッションショーでした。モデルさんはもちろんのこと、観客の方も含めみんなが日頃のオシャレ度も増すのではないかと期待しています。

Q：ズバリ今後、ファッションショーの予定はありますか？
A：そうですね。モデルをやってみたいと声が上がれば第２弾もあるかもしれませんね。
その時は、皆さんぜひ見に来てください。

障害者就業・生活支援センター
「ゆうあい」
横田　優子

Topics

「ロータリークラブからの贈り物」

四万十市で平成25年11月から利用者さんの要望でスタートしたライフサポート「中村」のソフトボール練習。安並の運動場で練習しています。

この度この活動が中村ロータリークラブの目にとまり、練習の指導や試合をしていただけることになりました。そこでバットとボールを寄付していただけることになり、5月11日（日）の練習前に運動場で贈呈式が行われました。

その後の練習では、中村ロータリークラブの方の指導でいつもよりもレベルが高い練習ができたので、みんなはより真剣に、より楽しんで充実した練習ができました。また、今後も練習指導や寄付をと言っていただき、みんなとても喜んでいます。

共同生活援助事業
ライフサポート「中村」
弘田　敏史

Report

社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 決算書 平成25年度

事業活動収支計算書（自 平成25年4月1日　至 平成26年3月31日）　（単位：円）　1頁

		勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
就労支援事業活動収支の部	収入	061 就労支援事業収入	129,673,809	120,484,763	9,189,046
		就労支援事業活動収入計(1)	129,673,809	120,484,763	9,189,046
	支出	021 就労支援事業支出	133,809,771	125,927,278	7,882,493
		就労支援事業活動支出計(2)	133,809,771	125,927,278	7,882,493
		就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	△4,135,962	△5,442,515	1,306,553
福祉事業活動収支の部	収入	064 補助事業等収入	95,068,372	89,045,482	3,977,110
		066 自立支援費等収入	1,207,565,911	1,171,995,434	35,569,477
		067 利用料収入		390,460	△390,460
		069 経常経費補助金収入	14,657,693	18,957,600	△4,299,907
		070 寄附金収入	683,177	1,065,422	△382,245
		071 雑収入	9,195,314	21,296,193	△12,100,879
		072 借入金元金償還補助金収入	1,500,000	1,500,000	
		074 国庫補助金等特別積立金取崩額	35,114,575	141,605,777	△106,491,202
		福祉事業活動収入計(4)	1,353,785,042	1,445,857,368	△92,072,326
	支出	022 人件費支出	760,784,226	711,373,770	49,410,456
		023 事務費支出	128,374,341	105,089,967	23,284,374
		024 事業費支出	164,053,420	179,731,433	△15,678,013
		025 減価償却費	66,618,629	65,122,581	1,496,048
		027 引当金繰入	5,366,894	5,284,509	82,385
		福祉事業活動支出計(5)	1,125,197,510	1,066,602,260	58,595,250
		福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	228,587,532	379,255,108	△150,667,576
事業活動外収支の部	収入	076 受取利息配当金収入	222,737	152,576	70,161
		077 会計単位間繰入金収入	33,484,708	9,182,112	24,302,596
		078 経理区分間繰入金収入	64,954,868	5,679,312	59,275,556
		事業活動外収入計(7)	98,662,313	15,014,000	83,648,313
	支出	028 借入金利息支出	415,009	540,143	△125,134
		029 会計単位間繰入金支出	33,484,708	9,182,112	24,302,596
		030 経理区分間繰入金支出	64,954,868	5,679,312	59,275,556
		事業活動外支出計(8)	98,854,585	15,401,567	83,453,018
		事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	△192,272	△387,567	195,295
		経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	224,259,298	373,425,026	△149,165,728
特別収支の部	収入	061 施設整備等補助金収入	29,638,000	12,678,000	16,960,000
		063 固定資産売却益（売却収入）	15,249	200,000	△184,751
		特別収入計(11)	29,653,249	12,878,000	16,775,249
	支出	035 国庫補助金等特別積立金積立額	29,638,000	367,157,072	△332,519,072
		036 固定資産売却損及び処分損（売却原価）	11	174,773,449	△174,773,438
		特別支出計(12)	29,638,011	536,930,521	△507,292,510
		特別収支差額(13)=(11)-(12)	15,238	△524,052,521	524,067,759
		当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	224,274,536	△150,627,495	374,902,031
繰越活動収支差額の部		前期末繰越活動収支差額(15)	1,088,441,192	1,038,746,057	49,695,135
		当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)	1,312,715,728	888,118,562	424,597,166
		085 基本金取崩額(17)			
		037 基本金組入額(18)			
		086 その他の積立金取崩額(19)	11,586,481	201,041,500	△189,455,019
		038 その他の積立金積立額(20)	387,193,828	718,870	386,474,958
		次期繰越活動収支差額(21)=(16)+(17)-(18)+(19)-(20)	937,108,381	1,088,441,192	△151,332,811

資金収支計算書（自 平成23年4月1日　至 平成24年3月31日）　（単位：円）　1頁

		勘定科目	予算	決算	差異	備考
就労支援事業活動による収支	収入	121 就労支援事業収入	129,093,000	129,673,809	△580,809	
		就労支援事業収入計(1)	129,093,000	129,673,809	△580,809	
	支出	091 就労支援事業支出	133,347,000	132,586,589	760,411	
		就労支援事業支出計(2)	133,347,000	132,586,589	760,411	
		就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△4,254,000	△2,912,780	△1,341,220	
福祉事業活動による収支	収入	124 補助事業等収入	84,384,000	85,068,372	△684,372	
		126 自立支援費等収入	1,203,820,000	1,207,565,918	△3,745,911	
		129 経常経費補助金収入	14,935,000	14,657,693	277,307	
		130 寄附金収入	684,836	683,177	1,659	
		131 雑収入	10,398,000	9,404,170	993,830	
		133 受取利息配当金収入	198,000	222,737	△24,737	
		134 会計単位間繰入金収入	33,553,000	33,484,708	68,292	
		135 経理区分間繰入金収入	65,157,398	64,954,868	202,530	
		福祉事業収入計(4)	1,413,130,234	1,416,041,636	△2,911,402	
	支出	092 人件費支出	770,858,110	760,993,082	9,865,028	
		093 事務費支出	142,343,599	133,741,235	8,602,364	
		094 事業費支出	171,751,819	164,053,420	7,698,399	
		095 借入金利息支出	428,000	415,009	12,991	
		096 会計単位間繰入金支出	33,553,000	33,484,708	68,292	
		097 経理区分間繰入金支出	65,200,522	64,954,868	245,654	
		福祉事業支出計(5)	1,184,135,050	1,157,642,322	26,492,728	
		福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	228,995,184	258,399,314	△29,404,130	
施設整備等による収支	収入	136 施設整備等補助金収入	29,638,000	29,638,000	0	
		138 固定資産売却収入	15,000	15,250	△250	
		施設整備等収入計(7)	29,653,000	29,653,250	△250	
	支出	098 固定資産取得支出	113,274,420	112,844,816	429,604	
		施設整備等支出計(8)	113,274,420	112,844,816	429,604	
		施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	△83,621,420	△83,191,566	△429,854	
財務活動による収支	収入	141 借入金元金償還補助金収入	1,500,000	1,500,000	0	
		142 積立預金取崩収入	12,276,481	12,276,481	0	
		財務収入計(10)	13,776,481	13,776,481	0	
	支出	100 借入金元金償還金支出	10,680,000	10,680,000	0	
		102 積立預金積立支出	387,883,828	387,883,828	0	
		103 その他の支出	11,000	11,000	0	
		財務支出計(11)	398,574,828	398,574,828	0	
		財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	△384,798,347	△384,798,347	0	
		予備費(13)	7,311,456	0	7,311,456	
		当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	△250,990,039	△212,503,379	△38,486,660	
		前期末支払資金残高(15)	1,010,453,033	1,010,453,033	0	
		当期末支払資金残高(14)+(15)	759,462,994	797,949,654	△38,486,660	

貸借対照表（平成24年3月31日現在）

資産の部 科目	当年度末	前年度末	増減	負債の部 科目	当年度末	前年度末	増減
001 流動資産	898,847,446	1,076,689,504	△177,842,058	011 流動負債	100,828,492	66,175,835	34,652,657
01 現金預金	601,560,415	824,295,748	△222,735,333	02 買掛金	963,976	766,016	197,960
03 売掛金	2,417,327	2,101,952	315,375	04 未払金	87,719,614	58,849,429	28,870,185
05 商品・製品	69,300	60,636	8,664	05 預り金	6,763,980	6,330,085	433,895
06 未収金	279,508,360	241,647,495	37,860,865	06 前受金	215,580	152,975	62,605
10 立替金	5,383,624	133,290	5,250,334	07 仮受金	5,165,342	77,330	5,088,012
11 前払金	5,719,961	4,098,623	1,621,338				
13 仮払金	4,188,459	4,351,760	△163,301				
002 固定資産	1,830,830,030	1,408,406,116	422,423,914	012 固定負債	217,043,427	224,478,469	△7,435,042
001 基本財産	1,231,760,674	1,185,235,747	46,544,927	01 設備資金借入金	166,005,000	176,685,000	△10,680,000
01 建物（基本財産）	1,188,423,734	1,141,878,807	46,544,927	05 共済財団退職給与引当金	51,038,427	47,793,469	3,244,958
02 土地（基本財産）	43,356,940	43,356,940		負債の部合計	317,871,919	290,654,304	27,217,615
002 その他の固定資産	599,049,356	223,170,369	375,878,987	純資産の部			
01 建物	7,102,291	7,633,875	△531,584	013 基本金	335,928,266	335,928,266	
02 建物附属設備	12,713,325	12,289,716	423,609	01 基本金	335,928,266	335,928,266	
03 構築物	27,931,469	28,760,229	△828,760	014 国庫補助金等特別積立金	687,359,500	694,269,795	△6,910,295
04 機械及び装置	3,754,782	4,212,605	△457,823	01 国庫補助金等特別積立金	687,359,500	694,269,795	△6,910,295
05 車輌運搬具	20,700,773	20,848,713	△147,940	015 その他の積立金	451,409,410	75,802,063	375,607,347
06 器具及び備品	21,596,189	23,099,989	△1,503,800	01 移行時特別積立金	21,500,000	22,700,000	△1,200,000
09 権利	30,000	30,000		04 人件費積立金	33,000,000	23,000,000	10,000,000
15 長期預け金	2,519,000	2,508,000	11,000	06 備品購入積立金	1,599,000	9,099,000	△7,500,000
16 移行時特別積立預金	21,500,000	22,700,000	△1,200,000	08 施設整備等積立金	384,000,000	8,000,000	376,000,000
19 人件費積立預金	33,000,000	23,000,000	10,000,000	10 工賃変動積立金	4,364,558	4,364,558	
21 備品購入積立預金	1,599,000	9,099,000	△7,500,000	11 設備等整備積立金	6,945,852	8,638,505	△1,692,653
23 施設整備等積立預金	384,000,000	8,000,000	376,000,000	016 次期繰越活動収支差額	937,108,381	1,088,441,192	△151,332,811
25 工賃変動積立預金	4,364,558	4,364,558		01 次期繰越活動収支差額	937,108,381	1,088,441,192	△151,332,811
26 設備等整備積立金	6,945,852	8,638,505	△1,692,653	02 （うち当期活動収支差額）	224,274,536	△150,627,495	374,902,031
29 その他の固定資産	51,292,117	47,985,179	3,306,938	純資産の部合計	2,411,805,557	2,194,441,316	217,364,241
資産の部合計	2,729,677,476	2,485,095,620	244,581,856	負債及び純資産の部合計	2,729,677,476	2,485,095,620	244,581,856

脚注　1　受取手形割引高及び裏書譲渡高　　円
2　減価償却費の累計額　578,955,451 円
3　徴収不能引当金の額　　円

ご意見・ご感想

機関紙「わだち 轍」に関するご意見・ご感想などございましたら、下記連絡先までお寄せください。
いただいた貴重なご意見を今後の機関紙づくりの参考とさせていただきたいと思います。

総合支援センターかがみの
社会福祉法人 高知県知的障害者育成会
TEL 088-855-3717
FAX 088-855-6181